

# Before becoming "SUZUKI KUUNYO"—鈴木空如への道—展 出陳作品解説

No.	出陳作品(史資料)	法量 (タテ×ヨコcm)	摘要
1	日本武尊	105.4×54.4	原図は河鍋暁斎「日本武尊の熊襲退治」
2	下図(「明治三十三年第一回丹青会出品下図」「四月廿八日荒井先生ミテ●目添別ヲ乞ヘシモノ」)	115.1×40.6	東京美術学校2年次の作品。
3	秋の七草	130.5×51.3	「空如」の落款あり。
4	法隆寺金堂壁画10号壁 薬師如来、左右脇侍菩薩(抜き写し)	132.5×60	空如はこのような抜き写しも行っている。図像理解に大変有益である。
5	法隆寺金堂壁画6号壁 阿弥陀如来背障(抜き写し)	132.5×60.5	背障の様子は、グプタ様式をとっている。
6	写生帖 第一号	23.5×16.3	東京美術学校2年次に自宅の周辺、千葉県市川の風景も写生している。
7	写生帖 第二号	23.5×16.3	東京美術学校2年次に自宅の周辺の草花を多く描いている。
8	野外写生	24×16	東京美術学校2年次に箱根周辺の風景や旧蹟を写生している。
9	縮図帖 第一号	26.5×19	植物や人物を写生している。
10	習作図(バツカ・カマキリ・チョウ・シカ他図)	27×38	
11	習作図(キンケイチョウ図)	27×38.5	「金鶏鳥図」のための習作図。
12	習作図(ニワトリ図)	37.5×27	
13	習作図(風景図)	40×28	自宅周辺の日暮りの風景を描いている。
14	法隆寺金堂壁画10号壁複製画	300×247	第一作目の原寸大複製画。鈴木空如を顕彰する会から寄贈された。

## 現代の研究者から見た空如の画業への評価

### ○有賀祥隆氏 (東京藝術大学客員教授、東北大学名誉教授)

・優れた古典の絵を模写することは創作でもあるのです。これまで模写をすることは、画家が絵を作り上げるという創作よりもある意味で低く評価されたのです。

・では誰もが、どんな画家でも原本があつてそれを模写したらそれが模写絵になるかというところではなく、やはり原本の持っている本当の絵の価値を写し伝える、というのは、それだけの技量がないとこの模写という仕事はできないのではないかと。

・空如が模写したあるいは下書きを見てみると、ただ原本があつてそれを写したという、ただそれだけのことでなくて、この空如の写した模写絵、そのものの中に我々が見出していくべきものがあり、感銘をうけるところが多々あるのです。

「鈴木空如の画業—法隆寺金堂壁画模写を中心に—」『鈴木空如資料調査研究事業Ⅰ』より

### ○泉 武夫氏 (東北大学名誉教授)

・空如が日本絵画の古典的名作に限りない尊敬の念をいただいていたことは、私などもたいへん共感いたします。

・最近の狩野一信の再評価をみますと、ある意味ではようやく空如の目線に時代が追いついてきたともいえ、空如の先見の明を思い知らされるところです。

「鈴木空如の古画研究と筆技」『鈴木空如資料調査研究事業Ⅱ』より